

地域ぐるみの情報一元化で鳥獣被害対策に対する住民意識の変化

1. 上白石地区3組織(松江市宍道町)

【結成】R3年8月16日

【構成】上白石自治会、上白石環境保全会、農事組合法人しじの郷はくいし

【戸数】34戸

上白石地区は、イノシシによる農作物被害が増加していることから、R3年2月に地域ぐるみ(※)で鳥獣被害対策に取り組む「鳥獣被害対策指定地域」に指定。

《地域ぐるみ(※)の被害対策のイメージ》

地域のリーダーが対策の必要性を認識

全ての住民への対策の必要性を意識づけ

必要な被害防止活動の実施

- ①被害、目撃情報の連絡
- ②捕獲
- ③防護柵の設置・管理や周辺の草刈り
- ④地域にある鳥獣の「えさ場」を除去

2. 取組の経過及び概要

当地区では、過去にクマが出没したことがあり、人身被害を想定した対策も必要であることから、自治会と環境保全会(多面的支払組織)、(農)しじの郷はくいしの3組織が一体となった体制づくりとして「上白石地区3組織」を結成。

併せて、各住民の役割と責任を明確にした実施体制を整え、全戸に周知して地域ぐるみでの活動がスタート。

《各住民の役割と責任》

- ・地域住民等:被害、目撃及び捕獲状況の報告
- ・情報収集担当:情報集約、迅速・的確な対応
- ・わな設置担当:わな設置と捕獲個体の処分



高木情報収集担当者と若手住民3人との打合せ

3. 取組の成果

(1) 地域ぐるみでの取組による情報の一元化

- ①全戸に対策の必要性を周知したことで住民の意識と知識が高まり、目撃情報等が情報収集担当者に一元的に集約。
- ②若手住民が中心となって、センサーカメラの設置等の役割を担い、映像確認やその後の対応が迅速化。



- ③効果的なワナの設置により捕獲頭数は増加。

(単位:頭、円)

	R2	R3	R4	前年比
捕獲頭数	—	10	26	260%
被害額	160,000	43,500	360,000	828%

- ④新たな被害防止活動としてワイヤーネット(防護柵)の設置に向けて、市にR5年度事業の要望書を提出(総延長約7km)。

(2) 他地域への波及

当地域の取組が管内の他の指定地域(つゆたま営農組合、大谷上営農組合)の参考となり、何れの地域も自治会、多面的組織と営農組合が一体となって取り組む計画。

法人の役員から一言

自治会と環境保全会と一緒に実施体制を整えたことなどにより、住民の意識が変わり、目撃情報等が逐次入るなどみんなで実態を共有できるようになった。



地域ぐるみなくして鳥獣被害対策はなく、そのためには人づくりと組織づくりが不可欠だと感じた。

高木情報収集担当

4. 課題と今後の取組方向

- (1)被害対策も農作業同様に高齢化した法人役員が中心であるため、世代交代等による若手作業従事者の確保が必要。
- (2)2名いた狩猟免許取得者が1名になった一方で、捕獲数が急増しており、新たな狩猟者の確保が急務。